

## 「企業的漁業と内水面漁業の安定的発展」の進捗状況

水産課・沿岸漁業振興課

### ○令和5年度末の進捗状況

#### ① ICTを活用した資源管理の推進

- 魚種別分布予測システム※について、沖合底びき網漁業の主要な漁獲対象魚種15種を実装（目標達成）。

#### ※魚種別分布予測システム

魚種毎の分布状況を予測し、漁業者へ迅速に情報提供することで、資源が減少している魚種の漁獲を避けたり、小型魚を避けて商品価値の高い大型魚を漁獲したりできる、効率的な操業を可能とするシステム。沖合底びき網漁業の主要な漁獲対象魚種で開発。

- 沖合底びき網漁業で同システムを活用して操業した結果、以下の効果を確認。

- 1航海あたりの漁場探索に要する時間が約8時間（28%）短縮
- 1航海あたりの漁獲金額が約274万円（34%）増加

#### 【1航海あたりの漁場探索に要する時間と漁獲金額】

	2018年	2023年
1航海あたりの探索時間（時間）	29.3	21.2（-8.1）
1航海あたりの漁獲金額（千円）	8,013	10,754（+2,741）

#### ② 優良種苗の放流による資源の安定化

- 県内河川環境に適した地場産アユ種苗を県内河川に放流

- 令和5年春に県内河川で採捕した稚アユを養成
  - 養成した親魚から採卵、種苗生産を行い、アユ種苗1万尾を放流  
次年度の親魚候補として、約3万9千尾のアユ種苗を継続飼育
- 親魚放流（令和5年秋） 約500尾